

テクノア IoTで生産設備管理 中小向けシステム開発



積層表示灯のセンサーで生産設備稼働状況を一元管理できるIoTシステム

業務用ソフトウェア開発のテクノア（岐阜市本荘中ノ町、山崎耕治社長）は、中小企業が生産設備向けのIoT（モノのインターネット）システムを開発した。生産設備に付いている積層表示灯をセンサーで読み取り、メーカーや種類の違う設備の稼働状況を一元管理できる。同社が手掛ける生産管理システムとつなげることで不具合が発生した際の原因分析も可能になる。自社ソフトの導入先に順次提案し、販路を広げる。

（河合修）

システムは、生産設備の正常、異常を知らせる積層表示灯の各層にセンサーを外付けし、稼働状況を確認する仕組み。設備本体のシステムを変更する必要がないため、中小企業でも導入しやすい。同社の生産管理ソフト「TECHS（テックス）シリーズ」と組み合わせると、不具合のあった機器の特定や原因の分析もできる。

できる。

同社は2017年秋からソリューション事業として他社との連携を進めている。センサーは無線機器を扱うアローセブン（浜松市）の技術で、両社が今年から連携して商品開発を進めてきた。他社連携による商品開発は3事例目。

テックスは、個別受注型の機械製造や多品種少量型の部品加工に特化した中小企業向けのソフトで、約3300社の導入実績がある。民間調査会社の富士キ

メラ総研の市場レポートでは、生産管理パッケージ部門の17年度出荷本数でトップだった。

今後は、自社ソフトの導入先の企業からシステムを販売する。一般向けの販売時期や価格は未定。